MITSUBISHI

三菱パーソナル
コンピュータ
apricot

apricot CX630 ユーザーズガイド

■ 本書およびその他の説明書は大切に保管してください。
■ 本機を安全にお使いいただくために、本書の「安全上の注意」を必ずお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをして下さい。

本装置は、落雷等による電圧の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）。

本書および本機は厳重な品質管理と製品検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、至急お買い求めの販売会社または本書に記載されているお問い合わせ窓口までご連絡ください。
お客様または第三者が本機の使用誤りや使用中に生じた故障、その他の不具合によってうけられた損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ソフトウェアを含む本製品は、日本国内用として製造・販売しています。
日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、この製品に関する技術相談、アフターサービス等も日本国外ではおこなっておりません。

本製品は、外為法で規制される技術に該当します。本製品を輸出（非居住者へ技術を供与する場合も含む）する場合は、特定地域向けを除き、日本国政府の役務取引許可は不要です。

ご注意

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

本書に記載した内容は、商品性や特定の目的に対する適合性を保証するものではなく、当社はそれらに関して責任を負いません。また、本書の記載の誤り、あるいは本書の配布、内容、利用にともなって生じる偶発的、結果的損害に関して責任を負いません。

本書に記載されている写真、イラストは、実際の製品とは細部が異なる場合があります。ご了承ください。

ソフトウェア使用許諾書

この『ソフトウェア使用許諾書』（以下本契約という）は、三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社（以下弊社という）が製造及び販売する『三菱パーソナルコンピュータ apricot CX630』（以下指定計算機という）に搭載するソフトウェア（以下『本件ソフトウェア』という）のうち個別に使用契約書が添付されているソフトウェアを除くソフトウェアに適用されます。ソフトウェアは記録媒体上のプログラム、および関連する文書類すべてを意味します。使用者は指定計算機を初めて起動した時に表示されるソフトウェア使用契約画面に対し承認操作を行った場合のみ上記ソフトウェアの使用が許諾されます。

第１条（使用権）

弊社及び著作権者は本契約により、使用者に対し使用権を与えることに同意し、使用者は以下の各条項を承諾し、この使用権を契約者以外に譲渡せず、かつ独占的な使用権を持たないことに同意します。

第２条（ソフトウェアの複製）

使用者は本件ソフトウェアの全部または一部を複製してはならないものとします。但し、次の（1）号に該当する場合に限り複製することができます。

(1) 本件ソフトウェアの安全対策上の理由により、指定計算機に限定し使用する目的で複製することができます。但し、弊社が本件ソフトウェアの複製を可能にする手当てをしているソフトウェアに限られます。

第３条（指定計算機以外での使用）

使用者は、指定計算機以外で使用しないものとします。但し、次の（1）号に該当する場合は、その事態が消滅するまでの期間、指定計算機以外の計算機で一時的に使用できるものとします。

(1) 指定計算機が保守点検、調整、故障などの作業のため使用できない場合

第４条（責任の権限）

(1) 弊社及び著作権者は本件ソフトウェアが使用者の特定の目的のために適当または有用であることについての保証はしません。

(2) 弊社及び著作権者は使用者が本契約にもとづき許諾された使用権を行使することにより生じた使用者の損害あるいは第三者からの使用者に対する請求に対して一切の責任を負いません。

第５条（本件ソフトウェアの仕様変更）

本件ソフトウェアを使用者が改変することは、弊社あるいは著作権者の文書による許可がない限り許容しません。また、弊社及び著作権者は使用者によって改変されたソフトウェアに関しては、一切の責任を負いません。

第６条（著作権）

本件ソフトウェアの著作権は、本契約に定める著作権者に帰属します。第２条に規定する複製物についても、その著作権は著作権者に帰属します。但し、本件ソフトウェアが記録されている記録媒体は著作権者に帰属しません。

第７条（機密保持）

使用者は本件ソフトウェア、および複製物、ならびにそれ等の関連資料を秘密扱いとし、これ等を一切開示してはならないものとします。使用者は本契約の有効期間中、およびその終了後も本契約に基づき知得した弊社あるいは著作権者の業務上の一切の秘密を、第三者に漏洩してはならないものとします。但し、次の（1）号に該当する場合を除きます。

(1)　既に公知となっている情報

第８条（契約期間）

本契約は、使用者が指定計算機の使用開始時に表示される「ソフトウェア使用契約」画面に対し承認操作を行ったときから、下記に定める各号により効力がなくなるまで有効に存続するものとします。

(1) 使用者は、弊社あるいは著作権者に文書で通知してから１ヶ月以内に使用権を終了させることができます。

(2) あるいは著作権者は、使用者が本契約に違反した場合、使用権を終了させることができます。

第９条（国外持出の禁止）

使用者は、事前に弊社あるいは著作権者の文書による許可がない限り、本件ソフトウェアを日本国外に持出あるいは送付してはならないものとします。

第 10 条（終了）

本契約による使用権を終了する場合、その日から起算して１ヶ月以内に本件ソフトウェアのオリジナルおよび複製物、印刷物等のすべてを弊社に返送するか破棄したことを証明する証明書を弊社に返送することとします。なお、返送、破棄のためのすべての費用は使用者が負担するものとします。

三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社

はじめに

本書は、次の項目について説明しています。

・パソコンのセットアップと使用方法

・内蔵オプション機器の増設方法

・BIOS セットアップユーティリティーの基本操作

・再インストール方法

・トラブルシューティング

安全上の注意

・本機を安全に使用していただくために、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

・ここで示した事項は、安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。ここで用いている表示とその意味は次のとおりです。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険、および物的損害のみの発生が想定されます。
	このマークのついているイラストと同じように取り扱ってください。
	このマークのついているイラストのように取り扱うことを禁止します。
	必ずアース線を接続する、という意味のマークです。
	電源ケーブルをコンセントから抜く、という意味のマークです。
	分解禁止、という意味のマークです。

本書は、必ず、パソコンをお使いになる方がいつでも見られる場所に保管してください。

設置、移設の際は以下のことがらを守ってください

⚠警告

・パソコン本体やモニターを一人で持ち上げられそうにない場合は、必ず誰かに手伝ってもらってください。
・パソコン本体の電源ケーブルはアース付きのコンセントに接続します。設置場所の近くに 2 極接地型コンセントを用意してください。アース無しのコンセントを使うと、故障や漏電時に感電する恐れがあります。



・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
・電源ケーブルには、重いものを載せたり、熱器具を近づけたりしないでください。電源ケーブルの被覆が傷つき火災、感電の原因となります。
・機器接続、取り外しは、本書の指示にしたがって行ってください。誤った取り扱いをすると感電、火災、けがの原因となります。

⚠注意

・湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気のあたる場所に置かないでください。火災、感電の原因となります。
・パソコン本体や周辺機器装置の換気孔をふさがないでください。火災の原因になります。
・パソコン本体は縦置き専用です。横置きにして使用しないでください。
火災の原因となります。
・通路にケーブルをはわせないでください。つまづいてけがの原因になります。
・パソコン本体の上に重いものを載せないでください。ものが落下したり、パソコン本体が転倒したりして、けがの原因となります。
・長期間、本機をご使用にならない場合は、安全のため電源を切って、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。



・電源は必ず AC100V（50Hz または 60Hz）を使用してください。それ以外の電源を使用すると火災の原因となります。

パソコン本体の内部を操作する際は、以下のことがらを守ってください

⚠警告

・パソコン本体の内部を操作する場合は、必ず電源を切って、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。通信ネットワークへの接続も切り離してください。また、必ずパソコン本体にカバーを取り付けてから電源を入れてください。
これらを守らないと感電、けがの原因になります。



・感電を避けるため、パソコン本体内の電源装置は絶対に開けないでください。電源装置の中に一般ユーザーが修理できる部品はありません。



・感電やレーザー光による目の損傷を避けるため、レーザーモジュールのカバーは決して取り外さないでください。レーザーモジュールの修理が必要な場合は、有資格のサービス担当者に依頼してください。レーザーユニットの修理は決して行わないでください。電波の要件や波長については、CD-ROM ドライブに添付のラベルを参照してください。本製品は、クラス 1 レーザー製品です。



・本書で指示している以外の場所は、分解しないでください。指示以外のカバーを外したり分解したりすると、感電、けがの原因となります。



以下のような使い方はしないでください

⚠警告

・パソコン本体の内部にクリップなどの異物を入れないでください。火災、感電の原因となります。
もし機器の内部に入った場合は、まず電源を切って電源ケーブルをコンセントから抜き、販売会社にご相談ください。



・パソコン本体の上に花びん、植木鉢、コップなどを置かないでください。水分がこぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となります。もしこぼした場合は、まず電源を切って電源ケーブルをコンセントから抜き、販売会社に相談ください。



・パソコン本体及び付属品を改造しないでください。火災、感電の原因となります。
・パソコン本体の上には乗らないでください。転倒し、けがの原因となります。
・電源ケーブルをコンセントから抜く時は、ケーブルを引っ張らないでください。ケーブルが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。

万一異常が発生したら、次のように処置してください



煙が発生する、変な音がするなどの異常が発生した場合は、すぐに電源を切って電源ケーブルをコンセントから抜き、販売会社にご連絡ください。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



目次

1 パソコンのセットアップと使い方

セットアップの前に

梱包を開ける

梱包箱を開けて、以下のものがそろっているか確認してください。



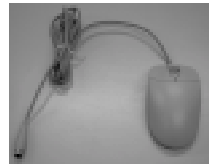
□ パソコン本体



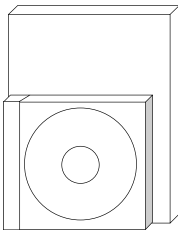
□ キーボード



□ 電源ケーブル



□ マウス



CD-ROM およびドキュメント

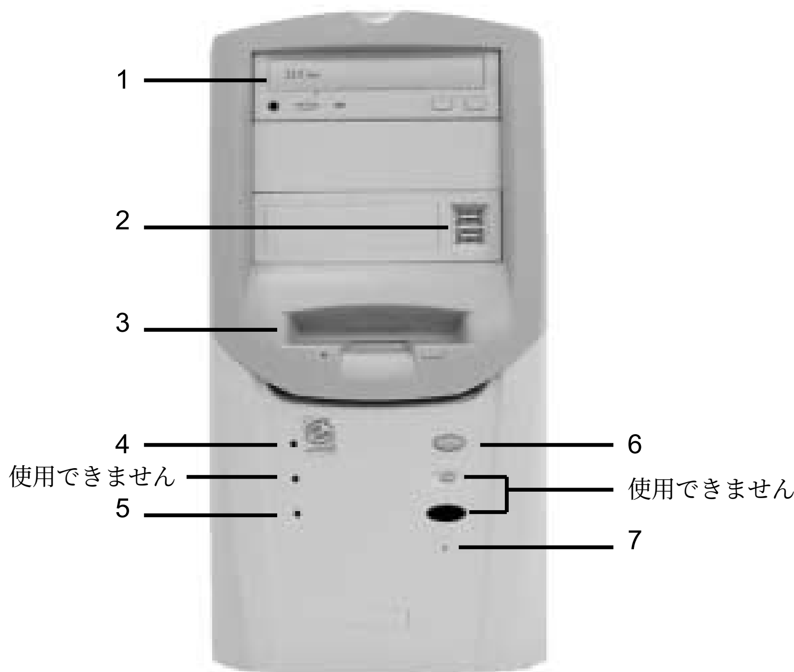
【各モデル共通】

- □ リカバリーCD-ROM
- □ ドライバーCD-ROM
- □ ユーザーズガイド（本書）
- □ 保証書

【Windows NT 4.0 / Windows 2000 モデル】

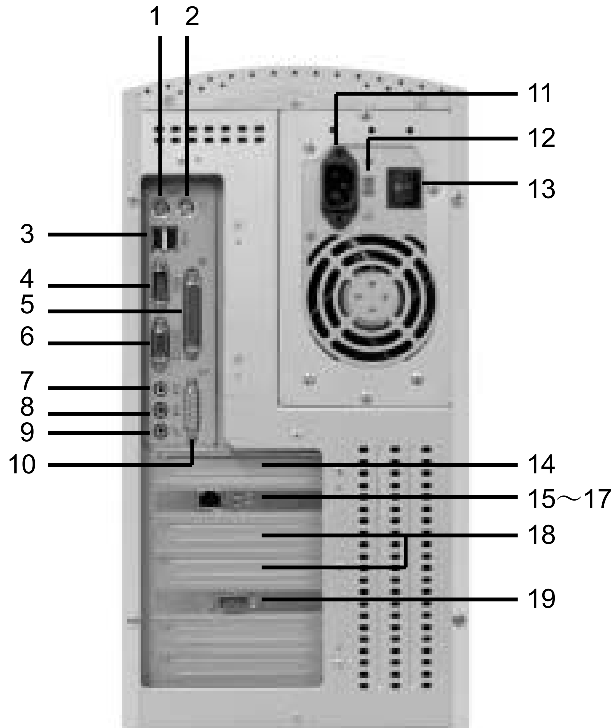
- □ Windows NT 4.0 Service Pack 6 Disk 1～2

各部の名称：本体前面



1. **CD-ROM 装置**
   CD-ROM、音楽 CD をセットします。ディスクを出し入れするときは □ ≜ を押してください。また、音楽 CD は ▷ ⏭ で早送りが可能です。
2. **USB コネクター×2**
   USB 機器を接続します。USB コネクターは本体背面にもあります。
3. **フロッピーディスク装置**
   フロッピーディスクをセットします。
4. **電源ランプ**
   電源が入っていると点灯します。スタンバイ中は点滅または暗く点灯します。
5. **ハードディスクアクセスランプ**
   ハードディスクにアクセスしていると点灯します。
6. **電源ボタン**
   パソコン本体の電源を入れるときに押します。Windows 98 の場合、電源を切るときにも使えます。Windows 2000/NT では故障の原因となるので、電源を切るときには押さないでください。
7. **リセットスイッチ（非常用）**
   パソコンを再起動します。作業中のデータで保存していないものは全て失われます。

各部の名称：本体背面



1 **キーボードコネクター（紫色）**
付属のキーボードを接続します。

2 **マウスコネクター（緑色）**
付属のマウスを接続します。

3. **USB コネクター×2（黒色）**
USB 機器を接続します。USB コネクターは本体前面にもあります。

4 **シリアルポート：COM1（青緑色）**
RS-232C 機器を接続します。

5 **パラレルポート（赤紫色）**
プリンターを接続します。

6 **モニターコネクター（青色）**
モニターを接続します。

7 **ライン出力コネクター（黄緑色）**
アンプ付きスピーカーなどを接続します。

8 **ライン入力コネクター（水色）**
音楽 CD プレーヤーなどを接続します。

9 **マイク入力コネクター（ピンク色）**
マイクを接続します。

10　**ジョイスティックコネクター（黄色）ジョイスティックを接続します。**

11　**電源コネクター**
電源ケーブルを接続します。

12　**電圧選択スイッチ**
必ず 115V に設定してください。

13　**主電源スイッチ**
本パソコンの主電源スイッチです パソコンを長期間使用しないときは OFF にします。

14　AGP **拡張スロット**
AGP 拡張ボードを装着します。

15　LAN **コネクター**（RJ-45）
LAN ケーブルを接続します。

16　LAN ACT **ランプ**
LAN でデータの送受信中に点滅します。

17　LAN LINK **ランプ**
LAN が正常に動作していると点灯します。

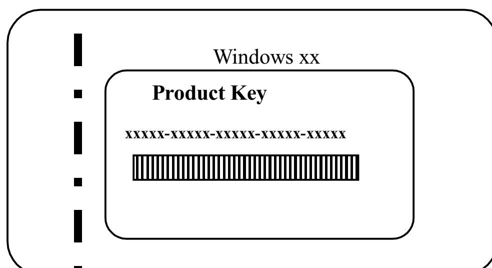
18　PCI **拡張スロット**×2
PCI 拡張ボードを装着します。

19　**シリアルポート：**COM2
RS-232C 機器を接続します。

⚠注意　CD-ROM 装置やライン出力コネクターにヘッドホンやスピーカーを接続する際は、急激な音響を避けるため、必ずボリュームを絞ってください。また大音量を長い間聞き続けると、聴覚を回復不能なまでに損なうことがあります。ヘッドホンはボリュームを絞ってから着用し、快適なリスニングレベルになるまで少しずつボリュームを上げ、その位置で止めておくようにしてください。

Certificate of Authenticity ラベルについて

パソコン本体**正面に向かって右側面**に『Certificate of Authenticity（COA）』ラベルが貼付されています。このラベルにはプロダクトキーが記載されており、お客様の製品が正規のものであることの証明になります。はがしたり、汚したりされた場合、修理や製品サポートをお断りすることがありますので、大切に扱ってください。



パソコンのセットアップ

基本的な周辺機器の接続

パソコン本体とモニターの電源ケーブルをコンセントから外した状態で、以下の接続を行ってください。

Check!	電源ケーブルは、必ず外してください。電源ケーブルが接続されていると、電源オフ状態でも、一部の回路に給電されています。

1 付属のキーボードを、パソコン本体背面のキーボードコネクターに接続します。

2 付属のマウスを、パソコン本体背面のマウスコネクターに接続します。

3 モニター（別売り）を、パソコン本体背面のモニターコネクターに接続します。

電源ケーブルの接続

1 パソコン本体背面の電圧選択スイッチが国内の電圧（115V）用に設定されていることを確認します。万一 230V に設定されている場合は、スイッチをスライドして 115V に設定してください。

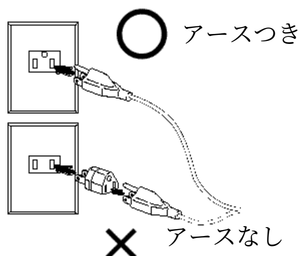
⚠注意	間違った電圧設定で起動すると、パソコンに損傷を与える可能性があります。



2 パソコン本体背面の電源コネクターに貼られた黄色のラベルをはがします。

3 電源ケーブルを電源コネクターに接続します。

4 電源ケーブルをアースつきのコンセントに接続します。



⚠警告

- 安全のため、電源ケーブルは必ずアース付きのコンセントに接続してください。
- 電源ケーブルは、本製品に付属のものか、国内の規格に合ったアースプラグ付きのものを使用してください。
- 本製品を電源から遮断するには、電源ケーブルをコンセントから抜く必要があります。
- 本製品は、コンセントにすぐ手が届くようにコンセントの近くに設置してください。

5 モニターの説明書を参照して、モニターの電源ケーブルをコンセントに接続します。

パソコンの基本操作

電源を入れる

1　モニターの電源を入れます。プリンターなどの周辺機器を接続している場合、それらの電源も入れます。

2　パソコン本体前面の電源ボタンを押します。

初めて電源を入れるとき

初めて電源を入れるときは、Windows のセットアップを行う必要があります。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。なお、セットアップが完了するまで電源は切らないでください。セットアップ中に電源を切ると障害が発生する可能性があります。

Check!

Windows NT/2000 モデルの場合、お使いになる OS（Windows NT 4.0 または Windows 2000）を選択してください。選択は初めて起動した時 1 回だけ行えます。万一、選択を間違えた場合は「リカバリーCD-ROM」で正しい OS を入れ直してください。（「リカバリーCD-ROM」で再インストールするときは、選択画面は表示されません。）

電源を切る

1　すべてのアプリケーションを終了し、［スタート］メニューから Windows を終了します。

2　Windows の終了処理が行われた後、自動的に電源が切れます。

Check!

- 何らかのトラブルによりすぐに電源を切りたい場合は、パソコン本体前面の電源ボタンを 4 秒以上押し続けるか、パソコン本体背面の主電源スイッチを切ってください。この場合、作業中のデータで保存していないものは全て失われます。
- Windows 98 の場合、手順 *1* を行うかわりにパソコン本体前面の電源ボタンを押しても電源を切ることができます。Windows NT/2000 の場合、電源を切るときには電源ボタンを押さないでください。電源ボタンを押して電源を切ると Windows が正常に終了せず、故障の原因となります。

リセットする

何らかのトラブルでパソコンが反応しなくなった場合、以下の手順でパソコンをリセットしてください。なお、作業中のデータで保存していないものは全て失われます。

1　パソコン本体前面のリセットスイッチを先の細いもので押します。リセットスイッチを押してもリセットされない場合は、手順 *2* に進みます。

2　パソコン本体前面の電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。電源が切れたら、もう一度電源ボタンを、こんどは普通に押してパソコンを再起動します。この方法で電源が切れない場合は、手順 *3* に進みます。

3　パソコン本体背面の主電源スイッチを切ります。電源が切れたら、主電源スイッチを入れ直し、パソコン本体前面の電源スイッチを押します。

スタンバイする（Windows NT では使用できません）

スタンバイとは、パソコンを一時休止することで消費電力を抑える機能です。

1　Windows 98 の場合は［スタート］メニューの［Windows の終了］をクリックし、Windows の終了ダイアログで［スタンバイ］をクリックします。
Windows 2000 の場合は［スタート］メニューの［スタンバイ］をクリックします。

2　モニターの表示が消え、パソコン本体前面の電源ランプが点滅または暗く点灯します。

レジュームする（Windows NT では使用できません）

スタンバイしているパソコンを通常の状態に戻すことをレジュームといいます。

1　パソコン本体前面の電源ボタンを押します。

2　パソコンが、スタンバイする直前の状態に戻ります。

ワンタッチキーを使うには

本パソコンに付属のキーボードには、ワンタッチでパソコンを起動したり、スタンバイに移行したりできる便利なキーがあります。



・Windows 98 の場合[注1]

キー	働き
電源キー	Windows 使用中に押すと、Windows が終了して電源が切れます。 電源が切れているときに押すと、電源が入ります。[注2]
スタンバイキー	スタンバイに移行します。

注 1　キーは使用しません。

注 2　BIOS セットアップユーティリティーの［Integrated Peripherals］－［POWER ON Function］の設定を［Keyboard 98］に変更しておく必要があります。BIOS セットアップユーティリティーの操作方法は、「3　BIOS セットアップユーティリティー」を参照してください。

・Windows 2000 の場合[注1]

キー	働き
電源キー	Windows 使用中は押さないでください。Windows が正常に終了せずに電源が切れることがあります。 電源が切れているときに押すと、電源が入ります。[注2]
スタンバイキー	スタンバイに移行します。

注 1　キーは使用しません。

注 2　BIOS セットアップユーティリティーの［Integrated Peripherals］－［POWER ON Function］の設定を［Keyboard 98］に変更しておく必要があります。BIOS セットアップユーティリティーの操作方法は、「3　BIOS セットアップユーティリティー」を参照してください。

・Windows NT の場合[注1]

キー	働き
電源キー	電源が切れているときに押すと、電源が入ります。[注2]

注 1　キーは使用しません。

注 2　BIOS セットアップユーティリティーの［Integrated Peripherals］－［POWER ON Function］の設定を［Keyboard 98］に変更しておく必要があります。BIOS セットアップユーティリティーの操作方法は、「3　BIOS セットアップユーティリティー」を参照してください。

節電機能を使う

本機は各種の節電機能を備えています。本機の使い方に応じて、節電機能を上手に利用すれば、消費電力を減らすことができます。

出荷時の設定

Windows 98/2000 の場合、30 分キーボード、マウスなどを使用しないと節電機能が働くよう出荷時に設定されています。Windows NT の場合は、出荷時は節電機能が働くように設定されていません。

Check!　Windows NT には OS による節電機能はありません。BIOS セットアップユーティリティーによるハードディスク装置とディスプレイ装置の節電機能のみ利用できます。

Windows 98 での節電機能の設定変更

Windows 98 の節電機能の設定は「電源の管理のプロパティ」で行います。

1　コントロールパネルの［電源の管理］をダブルクリックします。

2　［電源設定］タブをクリックし、［システムスタンバイ］、［モニタの電源を切る］、［ハードディスクの電源を切る］までの時間を設定します。

3　［詳細］タブをクリックし、［電源ボタン］を押したときの動作を設定します。

4　［OK］ボタンをクリックします。

Windows NT での節電機能の設定変更

Windows NT の節電機能の設定は「BIOS セットアップユーティリティー」で行います。OS による節電機能はありません。BIOS セットアップユーティリティーで設定できる節電機能は以下のとおりです。

項目名	内容
タイムアウトの設定	「ビデオタイムアウト」、「ハードディスクタイムアウト」を設定します。BIOS セットアップユーティリティーの操作方法は「3　BIOS セットアップユーティリティー」を参照してください。

Windows 2000 での節電機能の設定変更

Windows 2000 の節電機能の設定は「電源オプションのプロパティ」で行います。

1　コントロールパネルの［電源オプション］をダブルクリックします。

2　［休止状態］タブをクリックし、休止状態を使用するかどうかを設定します。

3　［電源設定］タブをクリックし、［システムスタンバイ］、［モニタの電源を切る］、［ハードディスクの電源を切る］、［システム休止状態］までの時間を設定します。

4　［詳細］タブをクリックし、［コンピュータの電源ボタンを押したとき］の動作を設定します。

5　［OK］ボタンをクリックします。

LAN に接続する場合の節電設定

本パソコンを LAN に接続する場合、自動的にスタンバイへ移行する機能は無効にすることをおすすめします。この機能が有効になっていると、ネットワーク環境やアプリケーションによっては、パソコンが正常に動作しないことがあります。

Windows 98 での設定方法

1 コントロールパネルの［電源の管理］をダブルクリックします。

2 ［電源設定］タブの［システムスタンバイ］を［なし］にします。

3 ［OK］ボタンをクリックします。

Windows NT での設定方法

Windows NT には、自動的にスタンバイへ移行する機能はないので、設定を変更する必要はありません。

Windows 2000 での設定方法

1 コントロールパネルの［電源オプション］をダブルクリックします。

2 ［電源設定］タブの［システムスタンバイ］を［なし］にします。

3 ［OK］ボタンをクリックします。

その他の注意事項

パーティションの設定（Windows NT/2000 モデルの場合）

Windows NT/2000 のセレクタブル機では、出荷時のハードディスクのパーティションは OS 起動パーティションのみです。
必要に応じて残りの領域にパーティションを作成してお使いください。

Acrobat Reader 4.0J を使用するには

本パソコンのハードディスクには Acrobat® Reader 4.0J の実行ファイルが格納されていますが、インストールされていないため、そのままでは使用できません。以下の操作を行ってください。

1 ハードディスク内の c:¥acrobat フォルダーにあるインストールプログラム（AR405JPN.EXE）を実行します。

2 Acrobat Reader 4.0J を起動します。必ず、［スタート］メニュー、またはデスクトップの Acrobat Reader 4.0J のアイコンから起動してください。

3 Acrobat Reader 4.0J を初めて起動すると、Acrobat Reader 4.0J の使用許諾契約書が表示されます。「無保証」条項なども含まれていますので内容を良くご確認の上、同意操作を行ってください。

Check!

Acrobat Reader 4.0J をインストールしたら、必ず上記手順 *2*、*3* を行って使用許諾に同意してください。この操作を行わずにエクスプローラやブラウザから PDF ファイルをダブルクリックしても、PDF ファイルは開けません。また、一度この状態になると Acrobat Reader 4.0J をアンインストールして再インストールしない限り、PDF ファイルが開けなくなります。

Acrobat Reader 4.0J の最新版に関する情報などについては、アドビシステムズ社の Web サイト（http://www.adobe.co.jp/）をご覧ください。

2 内蔵オプション機器の増設

増設できる内蔵オプション機器

本パソコンには、次の内蔵オプション機器を増設できます。

・メモリー

・拡張ボード（PCI×2、AGP×1）

・3.5 インチハードディスク×1

・5.25 インチドライブ×1

・3.5 インチドライブ×1

Check!

上記に該当するオプション機器でも、機器の寸法や規格によっては取り付けられない場合があります。詳しくは以下の Web サイトでご確認ください。
http://www2.mdit.co.jp/service/apricot/apricot.htm

増設の流れ

内蔵オプション機器の増設は以下のような流れで行います。

1 カバーの取り外し

増設する機器の種類に応じて、本体のカバーを取り外します。

2 内蔵オプション機器の取り付け

増設する機器の種類によって取り付け方は異なります。

3 カバーの取り付け

取り外したカバーを取り付けます。

各手順の詳細は、次ページ以降で説明します。

⚠警告

オプション機器は、静電気による損傷を受けやすいので、取り扱いは最小限にとどめてください。また、下記の点に十分注意してください。

- 作業を始める前に、金属製のものに手を触れて、身体の静電気を取り除きます。
- 作業中はすべての装置の電源を切ってください。
- 静電気発生の原因になるので、衣服がオプション機器に触れないように注意してください。

カバーの取り外し

増設する機器に応じて、左右のサイドカバー、およびフロントカバーを取り外します。取り外しは、①左サイドカバー、②右サイドカバー、③フロントカバーの順に行ってください（取り付けは、取り外しと逆の順番で行ってください）。

機器	左サイドカバー	右サイドカバー	フロントカバー
メモリー	○	―	―
拡張ボード	○	―	―
3.5 インチハードディスクドライブ	○	―	―
5.25 インチドライブ	○	○	○
3.5 インチドライブ	○	○	○

・○：取り外しが必要　　―：取り外し不要
・左サイドカバーとは、パソコン本体**前面に向かって**左側のカバー、右サイドカバーとは同じく向かって右側のカバーを指します。

⚠警告

- 安全のため、カバーを取り外す前に必ず、電源ケーブルやその他のケーブルをすべて外してください。
- 本体の内部を操作するときは、電源を切って 30 分以上経過してから行ってください。本体内部には高温部分があるので、電源を切ってすぐに操作するとやけどの原因となります。
- カバーを取り外したまま電源を入れないでください。電源を入れるときは、必ずカバーを取り付けてください。

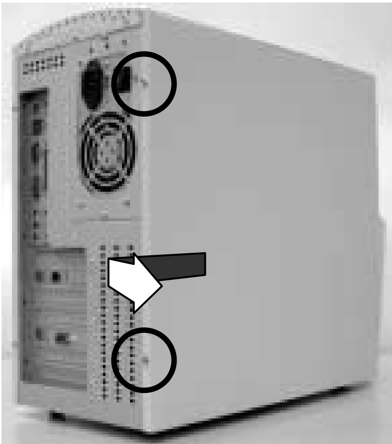
カバーを取り外す前に

1 パソコン本体とモニターの電源を切ります。

2 電源ケーブルとその他すべてのケーブルをすべて取り外します。

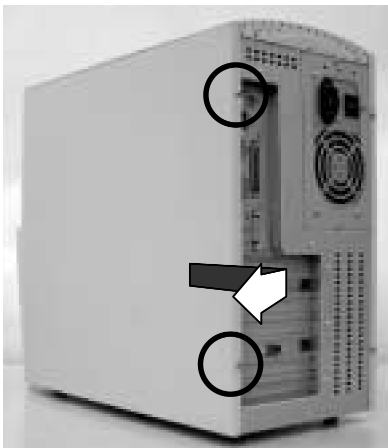
左サイドカバーの取り外し

1 パソコン本体背面にある 2 本のネジを取り外し、左サイドカバーを矢印の方向にスライドさせて取り外します。



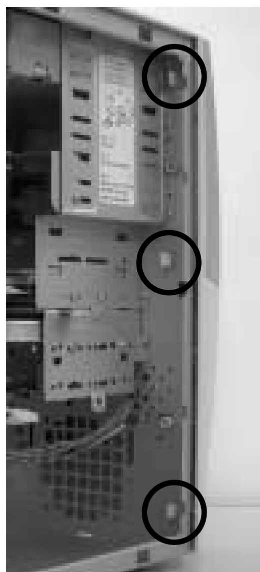
右サイドカバーの取り外し

1 パソコン本体背面にある 2 本のネジを取り外し、右サイドカバーを矢印の方向にスライドさせて取り外します。



フロントカバーの取り外し

1 フロントカバーを固定している 6 箇所のツメを、下から順に外していきます（ツメは矢印の方向に押すと外れます）。すべてのツメが外れたら、フロントカバーを手前に引いて外してください。



ツメは反対側にも 3 つあり、合計 6 つあります。



メモリーの取り付け

本パソコンには、128MB のメモリーが 1 基、標準装備されており、以下のように増設できます。

増設後のメモリー容量	スロット 1	スロット 2
256MB	128MB（標準装備）	128MB（増設）
384MB	128MB（標準装備）	256MB（増設）
512MB	256MB（増設）注	256MB（増設）

注　標準装備の 128MB メモリーを取り外し、256MB のメモリーと交換する必要があります。

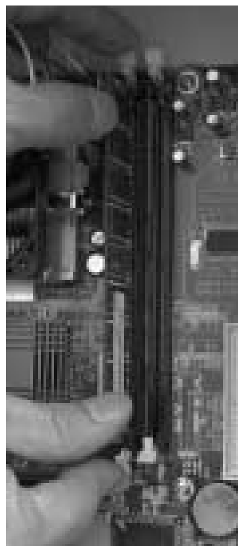


静電気の影響を避けるため、メモリーは端の部分を持ち、電気接点や素子に触れないようにします。

1　標準装備のメモリーを取り外すには、メモリースロットの両端にあるレバーをゆっくり矢印の方向に倒します。

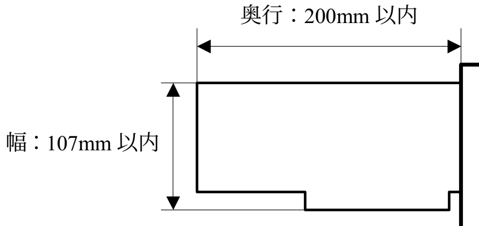


2 増設メモリーを取り付けるには、メモリーのコネクターとスロットの切り欠きを合わせ、ゆっくりと、奥まで確実に差し込みます。正しく取り付けると、両端のレバーが自然に閉じ、メモリーを固定します。



拡張ボードの取り付け

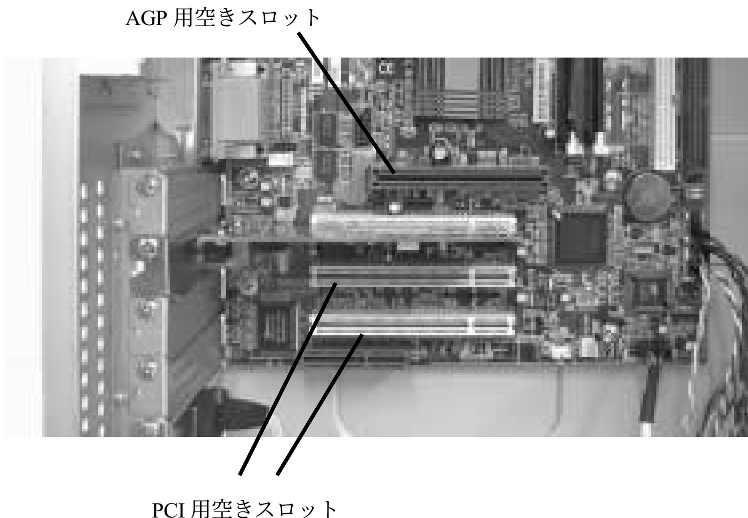
本パソコンには、PCI 用の拡張ボードスロットを 2 枚、AGP 用の拡張ボードを 1 枚増設できます。
取り付けられるボードの寸法は、PCI、AGP ともに、奥行 200mm 以内、幅 107mm 以内です。



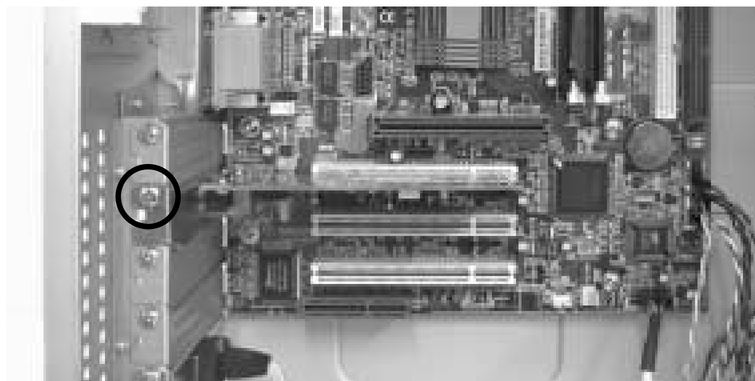
・奥行き：ブラケット(基板を固定する金具)から基板の端まで（ブラケットの折り曲げ部を除く）
・幅：突起を含む基板のサイズ

なお、使用可能なボードの消費電力は、以下の Web サイトでご確認ください。
http://www2.mdit.co.jp/service/apricot/apricot.htm

1　拡張ボードをどのスロットに取り付けるか、位置を確認します。



3 スロットカバーを固定しているネジ 1 本を取り外し、スロットカバーを取り外します（スロットカバーは大切に保管してください）。

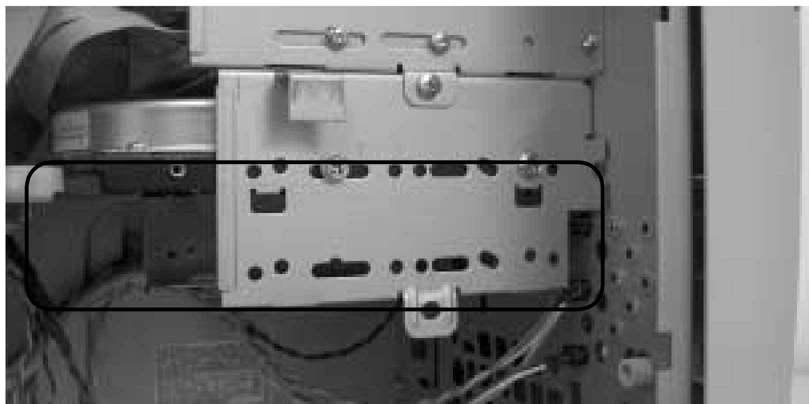


2 拡張ボードのコネクターをスロットに合わせて、ゆっくりと、奥まで確実に差し込み、手順 *2* で取り外したネジで拡張ボードを固定します。



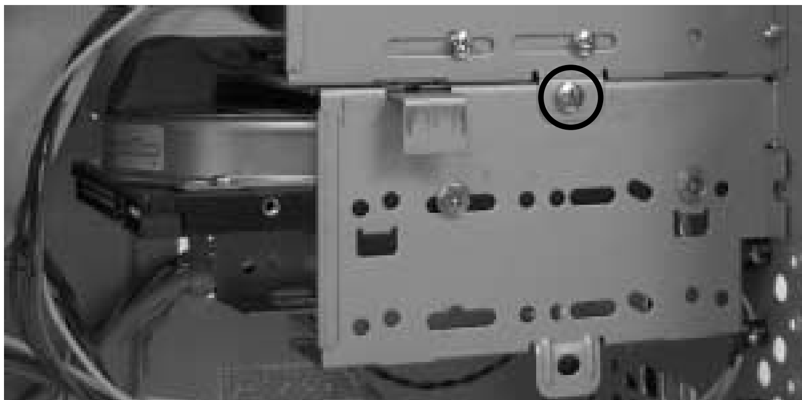
3.5 インチハードディスクの増設

3.5 インチハードディスクは､標準装備のハードディスクのすぐ下に取り付けます。

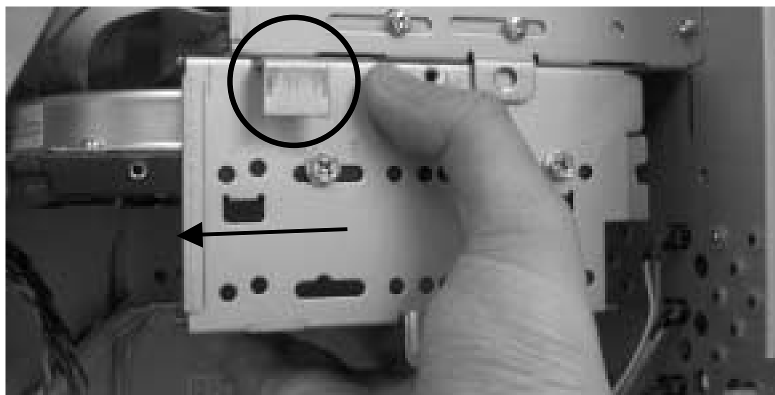


1 標準装備のハードディスクの信号ケーブル、電源ケーブルを取り外します。

2 ハードディスクベイを固定しているネジ 1 本を取り外します。



3 レバーを押しながらハードディスクベイを矢印の方向にスライドして取り外します。



4 ハードディスクベイにハードディスクを入れ、ハードディスクに付属のネジで固定します（ネジの位置や数はハードディスクによって異なります。ハードディスクの説明書を参照してください）。



5 取り外したときと逆の手順で、ハードディスクベイを本体装置に戻し、ネジ 1 本で固定します。

6 ハードディスクの説明書を参照して、信号ケーブル、電源ケーブルを接続します。

7 標準装備のハードディスクに、手順 *1* で外した信号ケーブル、電源ケーブルを接続します。

5.25 インチドライブの増設

5.25 インチドライブは、標準装備の CD-ROM 装置の下に取り付けます。



1 マイナスドライバーなどをドライブカバーのすきまに差し込み、ドライブカバーを取り外します。取り外したドライブカバーは以降、使用しません。地域の法令または条例に従って廃棄してください。

⚠注意 この作業は、手袋をはめ、カバーを軽く押さえながら慎重に行ってください。カバーは金属製なので、素手で勢いよく外すとカバーの角やふちで思わぬ怪我をすることがあります。

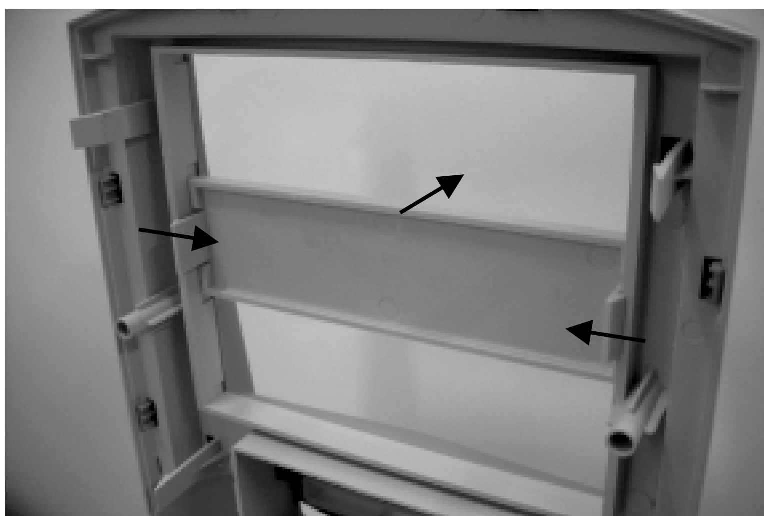


2　5.25 インチドライブを、矢印の方向からパソコン本体に入れ、ドライブに付属のネジで固定します（ネジの位置や数はドライブによって異なります。ドライブの説明書を参照してください）。



3　ドライブの説明書を参照して、信号ケーブル、電源ケーブルなどを接続します。

4　CD-R や DVD ドライブのように、ディスクの取り出し等で装置の前面を使用する機器を増設する場合は、フロントカバーの保護パネルを取り外します。フロントカバーの内側から、ツメを矢印の方向に押して外すと保護カバーが取り外せます。

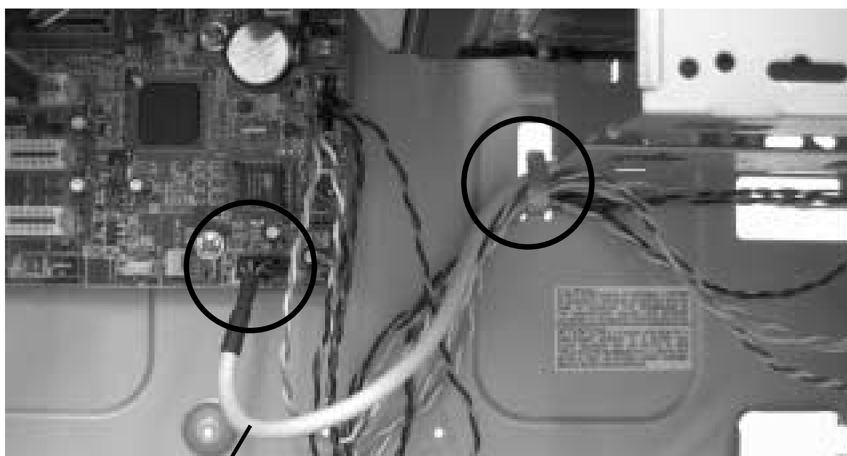


3.5 インチドライブの増設

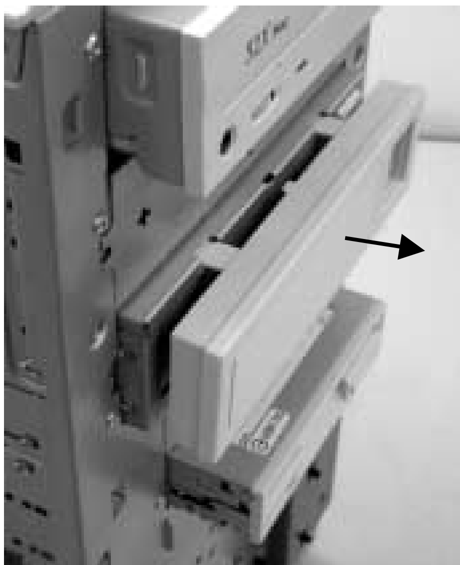
3.5 インチドライブは、以下の場所に取り付けます。



1 3.5 インチドライブベイにつながっている USB ケーブルをマザーボードから取り外します。ソケットからコネクターを取り外し、ケーブルを束ねているツメからケーブルを外してください。



2　3.5 インチドライブカバーを取り外します。上下 4 つのツメで固定されているので、ツメを押して外しながらドライブカバーを手前に引き出します。



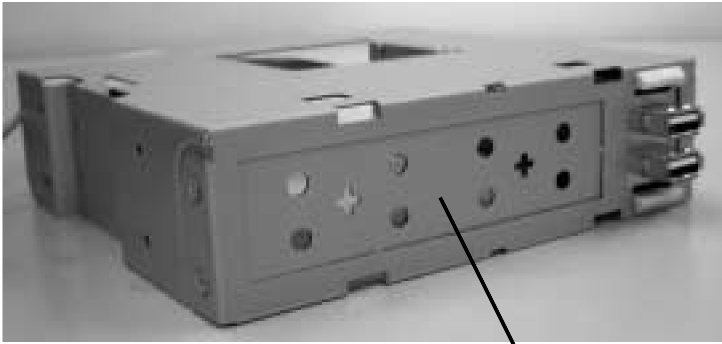
3　3.5 インチドライブベイを固定しているネジ 4 本を取り外し、3.5 インチドライブベイを矢印の方向から取り出します。





4 マイナスドライバーなどをドライブカバーのすきまに差し込み、ドライブカバーを取り外します。取り外したドライブカバーは以降、使用しません。地域の法令または条例に従って廃棄してください。

⚠注意 この作業は、手袋をはめ、カバーを軽く押さえながら慎重に行ってください。カバーは金属製なので、素手で勢いよく外すとカバーの角やふちで思わぬ怪我をすることがあります。



ドライブカバー

5 3.5 インチドライブを、矢印の方向からドライブベイに入れ、ドライブに付属のネジで固定します（ネジの位置や数はドライブによって異なります。ドライブの説明書を参照してください）。



6 取り外したとき（手順 *3*）と逆の手順で、3.5 インチドライブベイをパソコン本体に戻し、ネジ 4 本で固定します。

7 MO ドライブのように、ディスクの取り出し等で装置の前面を使用する機器を増設する場合は、3.5 インチドライブカバーから保護パネルを取り外します。ドライブカバーの内側から、ツメを矢印の方向に押して外し、保護パネルを奥側に押すと取り外せます。

8 取り外したとき（手順 *2*）と逆の手順で、3.5 インチドライブカバーを取り付けます。

9 ドライブの説明書を参照して、信号ケーブル、電源ケーブルなどを接続します。

10 取り外したとき（手順 *1*）と逆の手順で、USB ケーブルを取り付けます。

カバーの取り付け

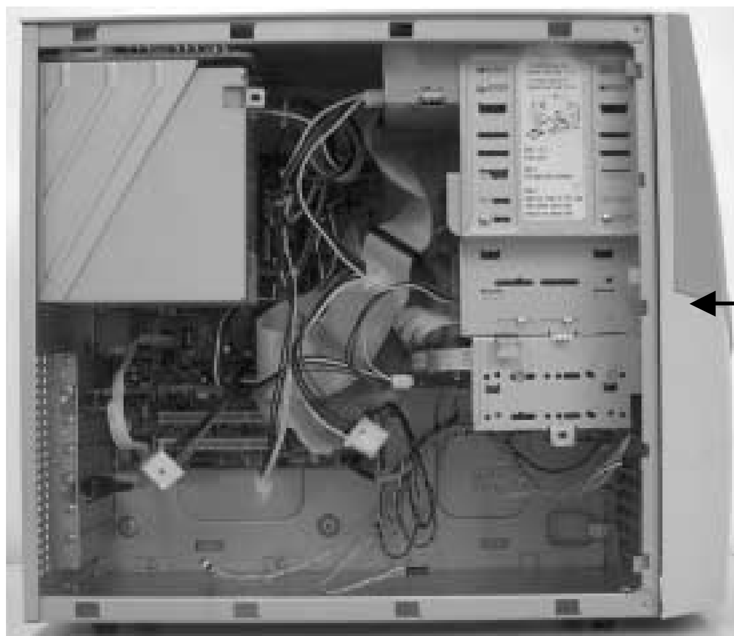
カバーの取り付けは、取り外しのときとは逆に、①フロントカバー、②右サイドカバー、③左サイドカバーの順に行ってください。

カバーを取り付ける前に

1　すべてのオプション機器の取り付けが完了したことを確認します。また、内部ケーブルの接続や配線状態が適切かどうか確認します。

フロントカバーの取り付け

1　6 箇所のツメをパソコン本体の溝にはめながら、フロントカバーをしっかり取り付けます。



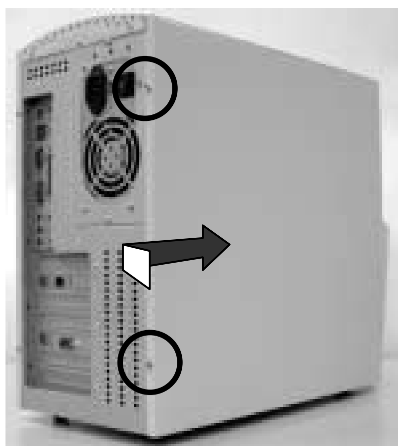
右サイドカバーの取り付け

1　右サイドカバーを、4 箇所のツメがパソコン本体の溝にはまるように、矢印の方向から取り付け、2 本のネジで固定します。



左サイドカバーの取り付け

1　左サイドカバーを、4 箇所のツメがパソコン本体の溝にはまるように、矢印の方向から取り付け、2 本のネジで固定します。



カバーを取り付けたら

1　電源ケーブルとその他すべてのケーブルを取り付けます。

2　オプション機器の説明書を参照し、必要に応じてドライバー、ユーティリティー等のインストールを行ってください。拡張ボードを増設した場合は、パソコン本体背面の拡張ボードスロットにケーブル類の接続が必要なこともあります。

（空白）

3 BIOS セットアップユーティリティー

BIOS セットアップユーティリティーとは

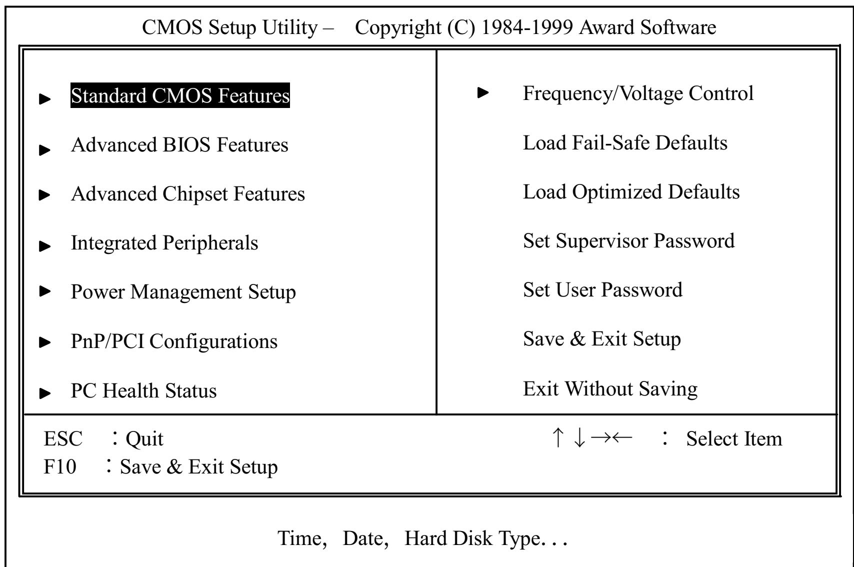
BIOS セットアップユーティリティーは、以下のような作業を行うときに使用するユーティリティーです。

・パソコンのシステム構成、メモリー容量を確認するとき
・節電機能の設定を行うとき
・セキュリティーの設定を行うとき
・接続／増設した周辺機器の設定を行うとき

起動方法

1　モニターとパソコン本体の電源を入れます。

2　画面下部に“［Delete］キーを押すとセットアップを起動します。”と表示されたら､以下の画面が表示されるまで［Delete］キーを押し続けます。



操作の流れ

BIOS セットアップユーティリティーは、キーボードを使って操作します。ここでは操作の流れを説明します。なお、各画面の下部にはその画面で使用できるキーの説明が表示されるので、操作の参考にしてください。

1 設定画面の選択

メイン画面では以下のように操作します。

1 ［←］［→］［↑］［↓］キーで、目的の設定画面（▸の付いている項目）を選択し、［Enter］キーを押します。

2 設定画面での操作

設定画面が表示されたら以下のように操作して設定を変更します。

1 目的の設定項目を［←］［→］［↑］［↓］キーで選択し、［Enter］キーを押します。

2 ［+］［−］［PageUp］［PageDown］キーで値を変更し、［Enter］キーを押します。

3 設定画面での変更が終わったら［F10］キーを押してください。メイン画面に戻ります。

Check!

▸マークが付いているのはサブメニューのある設定項目です。［←］［→］［↓］［↑］で選択後、［Enter］キーを押すことにより、サブメニューが表示されます。

3 BIOS セットアップユーティリティーの終了

メイン画面に戻ったら以下のように操作します。

1 ［←］［→］［↑］［↓］キーで、［Save & Exit Setup］を選択し、［Enter］キーを押します。

2 変更が保存され、新しい設定に従ってパソコンが再起動されます。

設定項目の詳細

設定項目の詳細は、以下の Web サイトを参照してください。
http://www2.mdit.co.jp/service/apricot/apricot.htm

CMOS バッテリーの交換

BIOS セットアップユーティリティーで設定した情報は、パソコンの CMOS に保存されます。CMOS は専用のバッテリーによって動作しますが、このバッテリーは 3〜5 年ごとに交換する必要があります。交換の際は、CR2032、またはその同等品をご用意ください。

⚠注意

- バッテリーは必ず指定品を使用してください。指定品以外のバッテリーを使用すると破裂し、けがの原因となります。
- 不要になったバッテリーは、地域の法令または条例に従い正しく廃棄してください。

1　BIOS セットアップユーティリティーを起動し、現在の設定を紙などにメモします（バッテリーを交換すると、現在の設定はすべて消失します）。

2　BIOS セットアップユーティリティーを終了します。

3　パソコン本体とモニターの電源を切ります。

4　電源ケーブルとその他すべてのケーブルをすべて取り外します。

5　パソコン本体の左サイドカバーを取り外します。詳細は「2　内蔵オプション機器の増設」の「左サイドカバーの取り外し」を参照してください。

⚠警告

- 安全のため、カバーを取り外す前に必ず、電源ケーブルやその他のケーブルをすべて外してください。
- 本体の内部を操作するときは、電源を切って 30 分以上経過してから行ってください。本体内部には高温部分があるので、電源を切ってすぐに操作するとやけどの原因となります。
- カバーを取り外したまま電源を入れないでください。電源を入れるときは、必ずカバーを取り付けてください。
- 次の作業を始める前に、金属製のものに手を触れて、身体の静電気を取り除いてください。

6　マザーボード上にあるバッテリーを取り外し、新しいバッテリーを取り付けます。



※この写真は、バッテリーの位置をわかりやすくするため、電源ユニットやケーブルを外していますが、実際の作業では外さないでください。

7　手順 *5* で取り外した左サイドカバーを取り付けます。詳細は「2　内蔵オプション機器の増設」の「左サイドカバーの取り付け」を参照してください。

8　手順 *4* で取り外した電源ケーブル、その他すべてのケーブルを元通りに取り付けます。

9　BIOS セットアップユーティリティーを起動し、手順 *1* のメモに従って元通りに設定し直します。

4 再インストール

「リカバリーCD-ROM」について

「リカバリーCD-ROM」は、ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す（すべてのソフトウェアを再インストールする）ための CD-ROM です。

Check!

「リカバリーCD-ROM」による再インストールを行うと、ハードディスクの内容は出荷時の状態に戻ります。ハードディスク上に作成したデータやインストールしたプログラムなどは、すべて消去されますのでご注意ください。
・パーティション変更を行わない場合は C：ドライブの内容が消去されます。
・パーティション変更を行う場合は変更したドライブの内容が消去されます。
必ず、再インストールを行う前にデータのバックアップを取ってください。（たとえばパーティションの変更をしない場合、C ドライブにお客様が作成したデータ、設定ファイルなどを D ドライブなど空いているドライブに待避しておいてください。）

Windows NT/2000 モデルの場合の注意事項

・Windows NT/2000 モデルには 2 枚の「リカバリーCD-ROM」が付属しています。お使いになる OS の「リカバリーCD-ROM」を使用してください。
　・Windows NT 用："DISK1"と記載されている CD-ROM
　・Windows 2000 用："DISK2"と記載されている CD-ROM
　なお、出荷時のセレクタブルの状態には戻りませんのでご注意ください。
・Windows NT/2000 モデルでは D ドライブが出荷時に作成されていません。再インストール前のバックアップを D ドライブに取りたい場合、パーティションを作成して D ドライブを使える状態にしてください。

再インストールの操作手順

1　「リカバリーCD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットし、パソコン本体を起動します。

2　［リカバリープログラム］画面が表示されます。パーティションを変更する場合は［←］、［→］キーで［パーティション変更］を選択して［Enter］キーを押し、手順 *3* に進んでください。
パーティションを変更しない場合は［リカバリー］を選択して［Enter］キーを押し、手順 *5* に進んでください。

3　［パーティション変更］画面が表示されます。出荷時と同じパーティションにする場合は［標準パーティション］を、パーティションを任意に作成する場合は［FDISK 起動］を選択して［Enter］キーを押します。以降、メッセージに従って操作してください。

4　パーティション作成後、パソコン本体が再起動すると、再度［リカバリープログラム］画面が表示されます。［リカバリー］を選択して［Enter］キーを押します。

5　［リカバリー］画面が表示されます。［OK］を選択し、［Enter］キーを押してください。C ドライブのフォーマットとファイルの復元が行われます。

6　「コンピューターを購入時の状態に戻しました」というメッセージが表示されたら「リカバリーCD-ROM」を取り出して［OK］を選択し、［Enter］キーを押します。

7　パソコンが再起動したら再インストールは完了です。

プリインストールソフトウェアとドライバー

ここでは、パソコンにプリインストールされているソフトウェアやドライバーの格納場所を紹介します。何らかの事情でソフトウェアやドライバーを個別に再インストールする際の参考にしてください。

Check!

プリインストールされているものとは別の Windows をインストールし直した場合、ドライバーは、ドライバーCD-ROM に収録されているものを使用してください。ドライバーCD-ROM には 3 種類の Windows（98/2000/NT）用のドライバーがすべて収録されています。

Windows 98 の場合

Windows 98 モデルでは、以下のソフトウェアがプリインストールされています。

・Windows 98 Second Edition
・EASYCRYPT

また、ハードディスクには以下のファイルがコピーされています。

フォルダー	内容
C:¥Driver¥Win2K	Windows 2000 用ドライバー
C:¥Driver¥Win98	Windows 98 用ドライバー
C:¥Acrobat	Acrobat Reader 4.0J
C:¥EasyCrpt	EASYCRYPT

Windows 2000 の場合

Windows 2000/Windows NT セレクタブルモデルで Windows 2000 を選択した場合は、以下のソフトウェアがプリインストールされています。

・Windows 2000 Professional
・Windows 2000 Service Pack1
・EASYCRYPT

ハードディスクには以下のファイルがコピーされています。ドライバーを再インストールする場合は、下記ファイルを使用してください。

フォルダー	内容
C:¥I386 C:¥BOOTDISK C:¥SETUP.TXT C:¥SUPPORT C:¥VALUEADD	Windows 2000 Professional のセットアップイメージ
C:¥Driver	Windows 2000 用ドライバー
C:¥SP1	Windows 2000 Service Pack1 のセットアップイメージ
C:¥Acrobat	Acrobat Reader 4.0J
C:¥EasyCrpt	EASYCRYPT

Windows NT のドライバーを再インストールする

Windows 2000/Windows NT セレクタブルモデルで Windows NT を選択した場合は、以下のソフトウェアがプリインストールされています。

・Windows NT Workstation 4.0
・Windows NT 4.0 Service Pack6
・電源切断ドライバー

また､ハードディスクには以下のファイルがコピーされています｡ドライバーを再インストールする場合は、下記ファイルを使用してください。

フォルダー	内容
C:¥I386 C:¥DRVLIB C:¥DRVLIBJ C:¥SUPPORT	Windows NT Workstation 4.0 のセットアップイメージ
C:¥SP6	Windows NT 4.0 Service Pack 6 のセットアップイメージ(｢Windows NT Service Pack 6 CD-ROM｣の¥I386 フォルダと同じもの)
C:¥MSIE5	Internet Explorer 5.0 のセットアップイメージ
C:¥HAL	電源切断ドライバー(HAL) Service Pack を再インストールすると、インストール済みの電源切断ドライバーHAL.DLL が上書きされ、電源が自動的に切れなくなります。この場合、このフォルダー内の HALSETUP.EXE を実行してください。
C:¥Driver¥NT4	Windows NT 用ドライバー
C:¥Driver¥Win2K	Windows 2000 用ドライバー
C:¥LAN	LAN ドライバー
C:¥Acrobat	Acrobat Reader 4.0J
C:¥EasyCrpt	EASYCRYPT

5 トラブルシューティング

パソコンが起動できない

パソコン本体の電源を入れても、モニターが真っ黒のままエラーメッセージも表示されない場合、次の手順に従ってください。

1 モニターの電源が入っているか、モニターの電源ランプなどで確認します。詳しくはモニターの説明書を参照してください。

2 パソコン本体の電源が入っているか、パソコン本体前面の電源ランプで確認します。電源が入っていれば電源ランプが点灯します。

3 パソコン本体、モニターともに電源が入っている場合、以下を確認します。

・モニターケーブルが正しく接続されているか確認します。

・モニターの輝度やコントラストの設定が正しいかどうか確認します。

・パソコン本体とモニターの電源を切り、電源ケーブルをコンセントから外してから、モニターケーブルを取り外し、コネクターピンを調べます。もしピンが曲がっていたら、注意してまっすぐに直します。

4 パソコン本体、モニターの電源が入っていない場合、以下を確認します。

・電源ケーブルがすべてしっかりと差し込まれているか確認します。

・他の電気製品をコンセントに接続してみて、コンセントが壊れていないか確認します。

・故障していない同機種の電源ケーブルがある場合、付け替えてみて電源ケーブルが壊れていないか確認します。

モニターが正しく表示されない

・画面が中央に表示されない場合や上下左右が切れている場合は、モニターの説明書を参照して画面がモニターの中央に表示されるように調節してください。

・画面が正常に表示されない場合、モニターの表示能力を超えた解像度や周波数を設定していないか確認してください。Windows 98 または Windows2000 のときはセーフモードで、Windows NT のときは VGA モードで起動し、設定を確認します。Windows NT では Plug & Play 機能がないために誤設定しやすいので、特に注意してください。

キーボードが動作しない

1 キーボードがパソコン本体に正しく接続されているか確認します。

2 キーボードが押されたままになっていないか確認します。

3 キーボードに液体をこぼした後から動作しなくなった場合、しばらく時間をおいて液体を乾かしてから操作してください。

マウスが動作しない

1 マウスがパソコン本体に正しく接続されているか確認します。

2 マウスドライバーが正しくインストールされているか確認します。

3 マウスボールとローラーを掃除します。

次のような症状が起きる（Windows 98 の場合）

・ウィンドウの右上にある最大化、最小化、閉じるボタンが文字化けする
・使用できるフォントが減った
・文字化けして文字が正しく表示されない
・画面の一部が壊れ、システムがフリーズする

このような症状が起きる場合、ttfcache というシステムファイルが壊れている可能性があります。ttfcache を再生成するため、以下の操作を行ってください。

1 ［スタート］メニューの［Windows の終了］をクリックします。

2 ［MS-DOS モードで再起動する］をクリックし、［はい］ボタンをクリックします。

3 画面に［C:¥WINDOWS］と表示されたら、下線のように入力します。［ENTER］は［Enter］キーを押すという意味です。

```
C:¥WINDOWS> attrib -h ttfcache [ENTER]
C:¥WINDOWS> del ttfcache [ENTER]
C:¥WINDOWS> exit [ENTER]
```

PDF ファイルが開けない

本パソコンのハードディスクには、PDF ファイルを表示するためのアプリケーション「Acrobat Reader 4.0J」の実行ファイルが格納されていますが、インストールされていないため、そのままでは使用できません。「1　パソコンのセットアップと使い方」の「その他の注意事項」に記載されている操作を行ってください。

1.2MB フロッピーの読み書きができない

Windows 98 の場合

ドライバーCD-ROM の¥WIN98¥3MODE フォルダーにある 3 モード FDD ドライバーをインストールしてください。インストールに際しては、同じフォルダー内の README.TXT を良くお読みください。

Windows NT の場合

ドライバーCD-ROM の¥NT4¥3MODE フォルダーにある 3 モード FDD ドライバーをインストールしてください。インストールに際しては、同じフォルダー内の README.TXT を良くお読みください。

Windows 2000 の場合

1.2MB フロッピーの読み書きはサポートしていません。

お問い合わせのご案内

本製品に対するご質問、お問い合わせは、まずお買い求めの販売会社へお尋ねください。また、弊社では三菱パソコン電話相談センターがご相談をお受けします。電話回線が混み合い、ご迷惑をおかけする場合もあるかと存じますが、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ窓口

三菱パソコン電話相談センター
電話番号（03）5487－4840（代表）
月曜～金曜　9:30～12:00、13:00～17:00
（ただし、祝日、夏期休暇、年末年始及び弊社の特別行事日は休みとさせていただきます。）

お問い合わせの前に

正確にお答えするために、以下の点について質問させて頂きますので、あらかじめメモなどをご用意ください。

・お客様のお名前、御住所、電話番号
・ご購入になった販売会社名
・ご使用の機器構成（本体機種名、プリンター機種名、モニター機種名、メモリー・ハードディスク増設状況および機種名、その他入出力装置名）
・質問点/問題点の具体的な状況と、その状況に至るまでの操作手順
（問題を分析するために必要なデータのご提供をお願いする場合もございます。）

お電話でのお問い合わせの際には、その場で動作を確認できる状態でおかけ頂きますと、より分かりやすくご説明できます。

ご注意

当社パソコンでご利用の第三者製品に対するご質問にはお答えでき兼ねる場合がございますのでご了承ください。また、製品の改造などに関するご相談はお受けできません。

付録

機器仕様

項目	仕様	
機種名	apricot CX630	
型番	M3D32-F32AD	M3D32-F32AM
	Windows® 2000/Windows NT® **セレクタブルモデル<注 1>**	Windows® 98 **モデル**
CPU（1 次/2 次キャッシュメモリー)	Intel® Pentium® III プロセッサ 1GHz(32KB/256KB)	
メインメモリー	SDRAM、標準 128MB、256/384/512MB に増設可能（512MB に増設時は標準搭載されているメモリーを取り外します）	
補助記憶装置		
フロッピーディスク装置	3.5 インチ(1.44MB/720KB) Windows 98/NT で 1.2MB の読み書きを行うには、ドライバー CD-ROM に所収の３モードドライバーのインストールが必要です。 Windows 2000 では、1.2MB の読み書きはサポートしていません。	
ハードディスク装置	40GB Ultra ATA100 対応(PCI バス接続)	
内蔵 CD-ROM 装置	最大 52 倍速 ATAPI インターフェース<標準>	
表示機能		
解像度(最大表示色)	1,600×1,200 ドット(256 色)、1,280×1,024 ドット(1677 万色)、1,024×768 ドット(1677 万色)、800×600 ドット(1677 万色)、640×480 ドット(1677 万色) ただし、接続する表示装置との組合せにより、実際に表示できる解像度は、色数は異なります。	
グラフィックアクセラレーター	Intel® 815E チップセットに内蔵	
ビデオ RAM 容量	メインメモリーの一部を使用。(Intel® D.V.M. Technology 採用。環境により使用するメモリー容量は変化します)	
ディスプレイ装置	別売り	
キーボード、マウス	標準装備(JIS 配列準拠 109 キーボード、PS/2 インターフェース スクロール付きマウス)	
標準装備インターフェース <注 2>	イーサネット×1（PCI バス接続 10/100BASE-TX）、シリアル×2（RS-232C 準拠 ASYNC D サブ 9 ピン）、パラレル×1（セントロニクス準拠 D サブ 25 ピン）、ディスプレイ×1(アナログインターフェース ミニ D サブ 15 ピン)、キーボード×1(ミニ DIN)、マウス×1(ミニ DIN)、USB×4（前面 2、背面 2）<注 3>、マイク入力×１、オーディオ入力×１、オーディオ出力×１、MIDI/ジョイスティック×１	

（つづく）

（つづき）

項目	仕様	
機種名	apricot CX630	
型番	M3D32-F32AD	M3D32-F32AM
	Windows® 2000/Windows NT® **セレクタブルモデル<注 1>**	Windows® 98 **モデル**
拡張スロット(空)	PCI ショート×3(2) 200(奥行)×107(幅)mm 以内 AGP ショート×1(1) 200(奥行)×107(幅)mm 以内 <奥行>はブラケット(基板を固定する金具)から基板の端までのサイズ(ブラケットの折り曲げ部を除く)。<幅>は基板のサイズ（突起を含む）。 奥行 幅	
拡張ベイ(空)	ハードディスク専用ベイ×2(1)、3.5 インチ前面ベイ×2(1)、5.25 インチ前面ベイ×2(1)	
VCCI 規格	クラス B	
電源：入力電圧、周波数	AC100V±10%、50/60Hz	
消費電力（最大/標準/省電力時）エネルギー消費効率<注 4><注 5>		
Windows 2000 選択時	385W/34W/28W　区分R：0.012	
Windows NT 選択時	385W/35W/35W　区分R：0.016	
Windows 98 モデル	385W/36W/28W　区分R：0.012	
その他		
環境条件	温度：10～35℃ 湿度：20～80%RH（結露なきこと）	
外形寸法、質量	210(幅)×470(奥行)×410(高さ)mm（突起物除く）　約 12kg	
プリインストールソフトウェア	Windows 2000 セレクト時: ・Microsoft® Windows 2000 Professional Windows NT セレクト時: ・Microsoft Windows NT Workstation 4.0	・Microsoft Windows 98 Second Edition
添付ソフトウェア	Adobe® Acrobat® Reader、EASYCRYPT、ドライバーCD-ROM、リカバリーCD-ROM	
保証	1 年間無償保証	

<注 1> 初回起動時に「Windows 2000 Professional」または「Windows NT Workstation 4.0」を選択します。選択しなかった OS を使用する場合は、別途 OS の購入が必要です。

<注 2> 接続できるすべての装置の動作を保証するものではありません。

<注 3> USB インターフェースは Windows NT 選択時は使用できません。

<注 4> エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された値を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

<注 5> フロントパネルの電源スイッチで電源をオフにすると、電力消費は 5W 以下になりますが、ゼロにはなりません。電源オフ時の電力消費をゼロにするには、パソコン本体の電源ケーブルをコンセントから抜くか､スイッチ付きの電源ブロックを使用してください。

索引

し

す

せ

そ

て

と

な

は

ふ

ま

め

も

ら

り

れ

わ

ご 注 意

□ 本書の内容の一部又は全部を当社に断りなく、いかなる形でも転載又は複製することは、固くお断りします。

□ 本書の記述内容は、ソフトウェア、ハードウェアの改訂に追従するように努力しておりますが、やむなく同期できない場合も生じます。

資 料 名 三菱パーソナルコンピュータ
apricot CX630
ユーザーズガイド

資料番号 NB492971-001

2001年6月20日 第1版第1刷発行

発 行 所

三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社 湘南事業所

〒247-8520 神奈川県鎌倉市上町屋325

本書は再生紙を利用しております。

三菱パーソナル
コンピュータ apricot

apricot CX630 ユーザーズガイド

三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社

NB492971-001